

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成27年12月の優しさ通信



特養、都市部で増設促す — 厚労省方針

賃貸物件も認める 「介護離職ゼロ」へ対策

ホームを借りた建物で運営することを認める方針です。これまでは運営主の社会福祉法人が建物を持つ必要がありましたが、高齢者が増える東京都など都市部に限って規制を緩めます。地主が特養を建てて丸ごと社会福祉法人に賃貸する仕組みを認め、増設を促します。

(2015年11月10日 日本経済新聞記事から抜粋)



高齢者の雇用保険 拡充 新規加入、65歳以上でも

就業促進、転職もしやすく

厚生労働省は、65歳以上の高齢者が新規で雇用保険に加入できるようにします。失業して新たに仕事を探す意欲のある高齢者に2016年度から最大50日分の失業手当を支給します。当面は労使が払う雇用保険料を免除。負担を軽くして高齢者が働きやすくする狙いです。

(2015年11月21日 日本経済新聞記事から抜粋)



装着型ロボ 医療機器に初承認 難病患者の歩行機能改善

厚生労働省は、足の働きが衰える難病患者の歩行機能を改善する医療機器として、筑波大学発ベンチャーのサイバーダイスが開発した装着型ロボットの国内販売を承認しました。ロボットの医療応用で患者が身にまとうような製品は初めて。厚労省は保険適用も検討しています。

(2015年11月26日 日本経済新聞記事から抜粋)



障がい児施設で虐待疑い 大阪・大正 市、処分視野に調査

大阪市内の障がい児向け学童保育施設で、スタッフが児童らの頭をたたくなど虐待の疑いがあり、市が行政処分を視野に調査しています。

この施設は大阪市大正区の「ビックハート」。女性スタッフが児童らの頭を複数回たたいたり、トイレに閉じ込めたりした行為があったと認定しました。市は認可取り消しなどの処分を検討しています。

(2015年11月30日 日本経済新聞記事から抜粋)